

令和5年度 地域連携事業（個人型）

兵庫県・神戸市における特別な支援を要する子どもへの学際的支援体制の構築

医学研究科 特命教授 永瀬 裕朗

人間発達環境学研究科 教授 北野幸子

背景・目的

発達、行動、心理面において特別な支援を必要とする子どもに対しては乳幼児期など早期からの支援が、将来にわたる身体的、心理的健康、社会適応を改善することが示唆されている。本事業では小児医療、保育所・幼稚園・こども園、保健・福祉・教育領域など各分野で行われている支援の実践を把握し、それぞれの専門職がお互いの支援内容を共有するための研修会、ワークショップを開催した。

事業の概要

2023年12月16日（土）14:00～17:00に、神戸大学医学部講義室並びにweb配信のハイブリッドで、第7回神戸こどもの発達支援研修会 ～ひとりひとりの発達を踏まえた乳幼児の支援 保育学・乳幼児教育学と医学の専門職連携のあり方を探る～ を開催した。参加者は226名（Web参加：175名 現地参加：51名）で、以下のように神戸市・兵庫県を中心に子どもの発達に関わる多様な所属の専門職が参加した。

職種：保育士 78名、医師 20名、教師 18名、看護師 16名、児童発達支援管理責任者 7名、公認心理師 7名、社会福祉士 4名、保健師 3名、他

所属：認定こども園 33名、保育所 28名、医療機関（公的療育機関以外） 24名、幼稚園 19名、公的療育機関 17名、通所支援事業者 15名、市区役所 7名、教育委員会 4名、児童相談所 3名、研究機関・専門職養成機関 3名、他

事業の効果

前半では医学、保育幼児教育学それぞれの分野が子どもの発達の問題をどのような観点で捉え、どのように取り組んでいるかということが紹介された。また児童福祉からの観点として、神戸市総合療育センター診療所長高田哲先生からの指定発言をいただいた。後半は現地参加者のみでワークショップを行った。前半の研修会を踏まえて小グループに分かれて多職種でのグループディスカッションを行った。活発なディスカッションが行われた。

今後の展望

参加者アンケートでは本セミナー・ワークショップは大変好評であった。一方で子ども発達支援に関して、各分野の参加者が抱える親自身の気づきの問題、現場でのマンパワーの問題、地域での連携の問題など様々な課題が挙げられており、次年度以降検討していくことが必要であると考えた。

